

# パラダイス

paradise

papers



## 文書

ICJ 南トイ  
新聞 提携

### 第1部

### 影の案内人③

## 疑惑の主トランプ氏の恩人

「どんなささやかな疑いも持たれないよう、細心の注意を払うようにしている」

1月18日、米上院。ウィルバー・ロス氏は、前を真つすく見据えて答えた。米トランプ政権の商務長官に就任するのを前に、利益相反を問われた際のことだ。

80歳の大富豪。投資家として数々の低迷企業を立ち

直らせ、「再建主」の異名を持つ。商売柄、幅広い業界の株を保有してきた。

トランプ氏との出会いは1990年。カジノ計画で金回りのトラブルを抱え、債権者に追放されそうにな

っていた。カジノ倒産に待ったをかけたのが、債権者集団代表のロス氏だった。リムジンに乗るトランプ

氏を一目見ようと聴衆が殺到する光景に「まだまだ値打ちがある大物」と判断したとされる。トランプ氏はビジネス界にとどまり、結果的に大統領まで上り詰めることができた。

商務長官は、米国の貿易や商業政策を担う。自らやトランプ氏の利益のために政策をゆがめかねないと、

議会は厳しい目を向けた。ロス氏は80社もの会社の株を手放すと表明。今年2月、「利益相反にはなりませぬ」と宣誓して長官に承認された。

法律事務所「アップルビー」からの流出文書。その中にロス氏の関連法人をま

とめたファイルがあった。

「GROUP WLR OSS」。内訳はこうだ。

▽ケイマン諸島 45社

▽米デラウェア州 8社

▽ジャージー島 1社

タックスヘイブン（租税回避地）を拠点とする「巨大帝国」をロス氏は築いて

いた。ここまで多数の法人を持つ顧客は、2万5千近い法人を抱えるアップルビーでも20に満たない。

法人名は同じような名前ばかりで、それぞれのつな

がりや事業実態は一見してわかりづらい。その中で、長官就任後も手放さなかつた四つの法人があった。複雑に絡んだ企業構造の糸をたぐっていくと、ロシアのプーチン大統領に近い企業との利害関係が判明した。

報道の直後は悪質性を否定したロス氏だが、問題の株を手放すと表明した。

政権幹部に問題が起きるたびに更迭してきたトランプ氏。だが「恩人」の疑惑には無言を貫いている。

政権幹部に問題が起きるたびに更迭してきたトランプ氏。だが「恩人」の疑惑には無言を貫いている。

政権幹部に問題が起きるたびに更迭してきたトランプ氏。だが「恩人」の疑惑には無言を貫いている。